

平成 27 年度 大垣市スポーツ推進審議会 会議録

日 時：平成 27 年 9 月 24 日（木）13 時 30 分から 15 時

場 所：大垣市役所北庁舎 北館 1 階 教育委員会室

議 題：(1)委嘱状の交付及び委員の紹介

(2)会長及び副会長の選出

(3)大垣市スポーツ振興計画目標指標における状況報告

(4)大垣市第 2 次スポーツ推進計画について

出席者（敬称略）

（委員）堤 俊彦《会長》

高橋 正紀、山田 幸隆、日下部 良邦、小原 良次、牧野 安孝、

高橋 美和子、矢橋 陽子、杉坂 信美、熊谷 勝彦 【計 10 名】

（オブザーバー） 宇佐見 昭典

（市及び事務局）

山本 謙（教育長）、藤 千昭（社会教育スポーツ課長）、宇津 慎一（社会教育  
スポーツ課参事）、中村 友昭（社会教育スポーツ課主幹）、加藤 洋（社会教育  
スポーツ課主幹）、熊谷 崇（社会教育スポーツ課） 【計 6 名】

欠席者（敬称略）

（委員）小川 修司、水谷 忠司 【計 2 名】

傍聴者：なし

事務局	※ 開会にあたって（会長を選出するまでの間、議事を進行）
事務局	<開会の挨拶>（略）
教育長	<あいさつ>（略）
事務局	<p>※ 委嘱状の交付及び委員の紹介</p> <p>※ 欠席者の報告（2名）</p> <p>※ 会長及び副会長の選出について、委員に意見を求める。</p> <p>&lt;事務局一任の意見有。前任期に引き続き堤俊彦委員を会長に、高橋正紀委員を副会長に推薦。異議なしの声有&gt;</p>

<p>会長</p>	<p>※ 堤俊彦委員に会長、高橋正紀委員に副会長を依頼。          &lt;堤委員と高橋（正）委員は承諾&gt;</p> <p>&lt;就任の挨拶&gt;（略）</p> <p>&lt;議事進行については、大垣市スポーツ推進審議会設置条例第 5 条第 3 項の規程により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。&gt;</p> <p>※ 定数の確認</p> <p>※ 審議会公開の報告</p> <p>※ 傍聴者の報告（なし）</p> <p>※ 事務局に対し、「大垣市スポーツ振興計画」目標指標における状況報告の説明を要請。</p>
<p>事務局</p>	<p>大垣市スポーツ振興計画目標指標における状況報告について、資料 P 3 から P 14 に基づき説明（略）</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの報告事項について、事務局から説明がありました。この件に関しまして、ご意見やご質問があればよろしくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>体力調査結果から、中学生は全国平均を上回っているが、小学生は、全国平均を下回っている。特に低学年はほとんどが下回っている。しかし、種目や学年によっては、上昇傾向の部分もあるがどうなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>岐阜県全体としては、小学生は全国平均より低く、大垣市も同じように低い。中学生は、部活動が盛んであるため、他県にくらべて有利である。小学生の体力向上を図るため、今年度より、岐阜経済大学と連携をして、江東小学校をモデル校指定し、3 年計画で小学生の体力づくりを見直し、独自の運動方法を研究し、市内 22 小学校に広めていく研究を進めています。</p>

委員	<p>小学校の体育主任を召集し、体力の向上をさせていくために、中休みなどの長い時間を利用して、握力等の向上を図るため、鉄棒やのぼり棒などの遊びを取り入れていくことを検討している。また、1年生や2年生の体力が低いことから、小学校だけでなく幼保園の段階から遊びを取り入れて、体力を向上させていくことを検討しながら、今年モデル事業を研究し、体力向上を目指していくため小学校の中では検討をしている。</p>
委員	<p>競技スポーツの振興の中で、指導体制の講習会について、なぜできなかったのか。理由はあるのか。指導者に対する講習会がなされていれば、体力が向上に繋がるのではないか。</p>
事務局	<p>この講習会は、競技力向上のための講習会である。各種目に特化した講習会は、少年団、中学校、高校では、各独自で実施しているが、この3つの指導者を召集して、講習会を開催するとなると、時間的な問題などにより、日程の調整をするのは難しいため、0回である。</p>
委員	<p>スポーツにとって、何が大事かは、各競技によって違う。ポイントだけでいいので、ステップアップの基本として講習会を実施し、子ども達の努力が無駄になってしまうことだけは避けたい。体育振興会でも、間違ったことを教えている指導者もいる。10人が10人とも同じ指導ではいけないので、その子ども達にあった指導ができるように、この指導体制の講習会はポイントだけでもいいので実施してもらいたい。</p>
委員	<p>遊びが少ないとの意見もあるが、小学生の握力低下などの岐阜県が低いのは何か原因がある。その原因を改善しなくては、一番基本となることがなされてなくて、鉄棒等をやらせることだけでは、的外れではないか。アンケートなどで、原因の追求はしているのか。</p>
事務局	<p>少年団は3割弱、運動をやらない子が7割。運動離れが進んでいる。小学校に体育専門の先生が少ないのが要因でもある。しかし、最近、若</p>

	<p>い先生が増加しているため、現在、進めている江東小の事業において、先生の意識を変え、体育の授業などで、いろいろと体を動かすことを進め、運動ぎらいであっても、自分の中で精一杯動く方法を考えていただき、他の小学校へも発信できればと思っています。</p>
委員	<p>聞いた話であるが、世界中で、スポーツ系の部活動が活発なのは、アジア 5ヶ国。ヨーロッパ等では部活動そのものがなくて自主性に任せていると聞いている。世界レベルでの平均数値はあるのか。日本は世界と比べてどうなのか。</p>
事務局	<p>資料としては手元にない。</p>
委員	<p>何か低下したことで弊害があれば改善すべきである。100m を 9 秒で走る人が優秀で、10m 歩けない人が駄目である切り口は適切ではない。部活動も大切だけど、ほかの見方はできないか。</p>
会長	<p>高橋（正）委員何かありますか。</p>
委員	<p>世界中で、学校体育の時間がこれほど確保されているのは、日本だけである。偏った見方があって、スポーツでは勝たなくてはいけないという思いが、親から子供に伝達される。先生も同様である。小学生 3・4 年生時に運動ぎらいの傾向がみられ、運動神経がよくなっても運動を好きな状況をどのように続けていくか、江東小学校では心をテーマに持って行っている。江東小学校の校長先生は体育の先生であり、江東チャレンジとして、簡単なことから、難しいことまで、工夫されている。自分が楽しむために、更に、チャレンジしてみようという気持ちになることで、運動神経の良い悪いで、馬鹿にしないといことを教えている。また、3・4 割の先生が体育の授業に苦手意識をもっている。その意識が子どもにも伝わってしまう。</p> <p>そのような面で、心をテーマとしている、江東小の事業は良い方向で進んでいるかと思う。海外でも子どもの運動不足が問題になっている。運</p>

委員	<p>動不足は世界共通である。体力値で比べることはないが、ドイツでは、クラブをやる子とやらない子の2極化が大きな問題である。</p> <p>その中で、日本の学校体育と学校部活の2つがある国は世界ではなかなかない。これをうまく活性化していくことが大切であると思っている。</p> <p>何もかも学校に任せるとなると、先生の負担が大きくなる。私は、スポーツ推進委員であるが、体育振興会などと共に、学校とは違ったところで、子ども達を受け入れる体制が大垣市全体で出来るのであれば、学校だけの負担増ではなくなる。体力の低下の原因は外遊びをしないことと繋がっているのであれば、個人の思いであるが、実際には分からないが、私達の子どもの時と比べると外遊びはしなくなっているので、外遊びのようなことを行わせるのもいいが、今の江東小のように、学校単位で、学校の先生に任せるのもいいのかとも思っている。</p>
教育長	<p>子どもの体力について、全国と比べると、幼児から小学校低・中学年は全国平均より低い傾向があり、中学校になると全国平均を上回る。その要因がわかるデータが見つからない。ただ、全国的な傾向の中で、20年前と比べて、子どもの1日に歩く量が1万歩減っているデータはある。間違いなく、子どもが幼児段階で体を動かさず、幼児は遊びであるが、体力が低いのは、それらの減少が原因と予想ができる。ただし、確実な根拠とはいえない。地域によっても体力データは違い、日常生活の運動量も違う。昨年まで綾里小学校で、家庭地域と連携した体力づくりを実施して成果はでている。学校だけでなく、家庭や地域での運動も極めて大切である。数値は、トータルとして示している。山田委員の原因はと言われるように、一箇所を特定して判断するのは非常に難しい。しかし、学校体育や家庭や地域でそれぞれ考えて取組んでいく中で、体力向上が改善されていくのではないかという見込みで進めています。</p>
委員	<p>スポーツ少年団に入っていて、非常に優秀な成績を収めてくる子ども達は沢山いる。小学生は確かに平均としては低いですが、中学生で改善され</p>

	<p>ている。中学生では全国を上回っているのであれば、結果良しではないか。安八では、体育指導専門の先生がいると聞いている。安八では、全国平均を上回っているのか確認してほしい。もし、上回っているのであれば、大垣市も取り入れてほしい。</p>
会長	<p>20年前と比べても、パソコンやテレビの影響は大きい。いつの時代も当たり前のように言われているが、私たちの子どもの頃は、遊びといっても、ガキ大将を中心に、自然と集まって、みんなで知恵をだして遊び、スポーツではないが、体を動かすことをしていた。今は、体を動かすということがあまりない。</p>
教育長	<p>会長の言われるように、遊びも変わっている。今、一番多いのはゲームであり、20年前はゴム跳びであった。ドッジボールなどは現在も遊びとしても多く行われているが、一番はゲームである。この問題は、日本的な問題であり、岐阜県だけの問題ではない。しかし、地方では、それほどゲームをしている子どもの割合は高くなく、都会の子ども達のほうが高い。</p>
会長	<p>※事務局に対し、大垣市第2次スポーツ推進計画について、説明を要請。</p>
事務局	<p>大垣市第2次スポーツ推進計画について、資料P15からP18に基づき説明（略）</p>
会長	<p>第2次スポーツ推進計画の説明と目標指標などの説明について、ご質問等があれば、お願いします。本日、体育連盟からオブザーバーとして宇佐見専務理事が見えていますが、体育連盟として何かご意見はありますか。</p>
オブザーバー	<p>市民アンケートは、体育施設利用者を対象ですか。</p>

事務局	そうです。利用者に協力願うものであり、市として毎年依頼しているアンケートです。
オブザーバー	市が実施する場合は、体育施設利用者でなく、広く市民を対象に行ったほうがよいのではないかと。指定管理を受けているということで、仕様書に基づき、今年の7月に満足度調査を施設利用者に対して実施した。指定管理者が実施し、市が実施となるとアンケートばかりで苦情がでる。体育施設利用者に対しての調査については、指定管理者に指導いただければ、進めていきたいと思う。
事務局	一般の人に対しても無作為で毎年実施しております。施設利用者に対しても毎年実施しております。
オブザーバー	何回も行うということですか。利用者からの苦情がある可能性ある。
事務局	一つ補足ですが、資料4の一番右の調査方法が記載されていますが、教育に関する市民アンケート調査、これは、市民全体を対象に無作為で行っており、専務が言われるとおり、重複する部分については、検討していきたいと思えます。
オブザーバー	私どもの満足度調査は、ソフトとハードの両面の調査である。職員の接客態度、施設の管理状態、施設全体の満足度調査を中心に実施しているので、若干、市民アンケートとの項目と違う点もあるが、スポーツをやっていない人にも、スポーツの良さをしっていただくため、ボランティアなどの呼びかけをこのようなアンケートの中で実施出来れば魅力が広がると思う。
委員	市民アンケートと体育施設利用者アンケートの調査の人数を揃えたほうがよいのではないかと。
事務局	検討していきます。

事務局	市民アンケートについては、教育全般であるため、今後調整しながら検討をしていきます。
会長	小中高校生の指導者への研修会、講習会については。
オブザーバー	合同ではないが、少年団は少年団、指導者は指導者として、講演会も含めて体育連盟としては大垣市と協議しながら実施していく。
委員	同じような項目について、(2) 競技スポーツの推進と、(3) 学校における体育・スポーツの充実にも、指導者資質向上としてあるが、同じ内容で全て体育連盟に確認となるのか。
事務局	両方に関わりがあるため、項目としてあります。
委員	一貫した指導体制は、理想的なことだが、非常に難しいことである。指導者同士の連携や理解がとれない中で、一歩ずつ進めていく方法として、小中、そして中高の指導者が理解していくなどの仕組みをつくっていかないと現状は難しい。
オブザーバー	市と体育連盟も含めて、体育振興会へのお願いでもあるが、この計画の中で、一番明確なのが、総合型の地域スポーツクラブである。全国的に広げようとしている中、今回、岐阜経済大学が認定されるが、先進的な組織としてあるのが、大垣市連合体育振興会である。しかし、スポーツに参加する人が少ないと聞く。そんな中、2、3の都市においては、連合体育振興会を見直し、総合型に切り替えていこうという動きがある。大垣市の場合は、連合体育振興会が核となってしっかり活動しているため、大垣型の計画もあるが、今後、重点的にご支援、取り組みをしていただければ、連合体育振興会の組織を消すことではないが、この機会にもう一度、地域コミュニティ、生涯スポーツの振興をするうえで、この計画書の具現化につながるのではないかと考えています。



委員	スポーツをやる人が同じ人ということから脱却するには、昔の遊びのような、誰でもできる軽スポーツを実施していかなくてはいけない。また、運動ができる人が、楽しみながら、勝負にこだわってやるスポーツを行うことについての議論は 4・5 年前から実施している。各委員の皆さんの意見を聞きながら、宇佐見さんの意見に近づけるように、振興会の副会長ですので、会長へ報告します。
会長	その他、全体を通じて何かありますか。
委員	冒頭でありました、小学校の体力向上について、2 歳から 5 歳までの間、親との関わりの中で、ある先生は、親と沢山遊ぶ子は大きくなってもありと体力的には高いと聞いている。親は意外と子どもとの遊び方を知らない。環境的には、ゲームなどがある中で、親の意識、または子ども会の意識向上で、地域を上げて、子ども達と遊ぶ手法を親さんに教えられる機会があると良いと思います。
会長	その他何かありますか。 では、特にないようですので、審議会は以上とさせていただきます、事務局から連絡事項があればお願いします。
事務局	本日頂戴しました貴重なご意見を参考にしながら、第 2 次スポーツ推進計画をもとに、スポーツの振興に取り組んでまいりたいと存じます。  ※閉会

前記のとおり、相違のないことを証するため署名捺印する。

平成 27 年 月 日

議 長 堤 俊 彦 ㊟

本会議録の作成に係る職務を行った者

社会教育スポーツ課 藤 千 昭 ㊟

捺印いただきました原本については、大垣市スポーツ推進審議会事務局（社会教育スポーツ課）で保管しております。